

〈書評集〉

# 私たちにとっての近代日本音楽史

## 細川周平『近代日本の音楽百年』読書会記録

本読書会の趣旨について

西澤 忠志

2021年1月から2022年2月にかけて開催した『近代日本の音楽百年』の読書会をまとめた。本稿に先だって、この読書会がどのような目的のもとで行われたのかを説明する。なお、この内容は、呼びかけ人である筆者の見解に過ぎないことを予めお断りしておく。

2020年は、音楽学者の細川周平『近代日本の音楽百年』計4巻の刊行によって幕を下ろされた。1989年から94年にかけて『ミュージック・マガジン』に連載された「西洋音楽の日本化・大衆化」を中心に、それまで取り組んできた近代日本音楽史に関わる論文をまとめた本著は、言わば細川周平の「ライフワーク」を集めたものとなった。「隠れた名作」として密かに語られてきた連載が遂に刊行されたことは、瞬く間に音楽研究者のみならず、音楽家などの多くの人々の耳目を集めた。合計1360ページ。1冊平均340ページ。LPレコードを意識したという厚紙のケースもまた、この本が持つ「重み」を実感させる。現在（2022年3月）までに、第71回芸術選奨文部科学大臣賞、第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞（ポピュラー）著作出版物賞を受賞するなど、本著は高い評価を得ており、今後の日本音楽史研究において無視できない存在となるだろう。

『近代日本の音楽百年』の文章は、決して難しいものではない。ダジャレを含んだ

軽い文体によって西洋音楽の受容と消化を解説する歯切れの良さは、爽快な読後感を与えるほどのものだ。しかし、本著を精確に読み解こうとすれば、西洋音楽受容史の知識だけでなく、音楽史だけでなく、演劇史、サウンドスタディーズ、文学史など多様な専門的知見が必要となる。これは『近代日本の音楽百年』が、唱歌や軍楽隊といった、これまで日本音楽史研究で取り上げられてきたテーマだけでなく、少女歌劇、騒音、ジャズ文学と音楽に関わる多様なジャンルをカバーする、細川のこれまでの知見が存分に活かされているからである。

これは自分の身では手に余るものである。そこで、Twitter と Facebook で読書会への参加者を募り、日本近代音楽史研究だけでなく、近世日本音楽史研究者、演劇研究者、ポピュラー音楽研究者、演奏家などの方々にご参加いただいた。読書会では参加者の希望に沿って選んだ各章を精読し、参加者の知見をもとに『近代日本の音楽百年』が持つ意義を考察した。この読書会での成果を参加者だけでなく、より多くの人々に共有するために、本書評集を公開した。

本書評集の目的はそれだけでない。高価である『近代日本の音楽百年』の内容を未読の読者に、本著の成果を共有するためである。学術専門書が高価であることは珍しいことではない。読者層が限定され、出版部数が少ない学術専門書から少しでも利益を出すためには、補助金制度を活用するか価格を高くするより他ない<sup>1</sup>。こうした高価な専門書を無料で読むためには公共図書館を使うことが考えられるだろう。しかし交通アクセスの問題や、所蔵されている冊数の制限から、参照したいときに読めるとは限らない。

本の内容を知るための方法の一つに、書評を読むことがある。書評を手掛かりに本の内容を知り、そこから本を手にとったという経験は、私だけではないだろう。こうした道しるべとしての効用も、批評の役割の一つだと思う。本書評集を通じ、近代日本音楽史をめぐる多様な視点に触れ、現在の日本音楽史研究や日本近代史を再考する一助になれば幸いである。

本読書会の構成は次の通りである。まず、主催者である私が、これまでの近代日本音楽史研究における『近代日本の音楽百年』の意義を論じる。次に、参加者の有志に

---

1 学術書を、専門研究者を主な読者層と考える「専門書」、一般読者にも読んでもらえることを目指す「教養書」に区分した場合、「専門書」は堅実に売れているものが多いが、「教養書」は価格が安くても売れないという事態が起きている（永滝 2017, 182-183）。本書の出版社は学術書専門ではないため、この事態が当てはまるかどうかには注意が必要だが、高価で一般の人にも読まれる教科書を目指した本書が当てはまる場合、さらに工夫が必要となるだろう。

より、『近代日本の音楽百年』が各自にとってどのような意義があるのかを論じる。

なお、読書会で取り上げた各章は参加者の興味関心に沿って決めたため、巻によって偏りがある。この点、御了解いただきたい。

最後に、この読書会に参加していただいた方々に感謝したい。拙い運営ではあったが、本書評集がここまで辿りつけたのは、参加していただいた方々の協力なしには成し得なかったことである。

#### 参考文献

永滝稔 2017「歴史学・学術書・読者の新たな関係を考える」『歴史を社会に活かす——楽しむ・学ぶ・伝える・観る』181-191 東京：東京大学出版会

#### 書誌情報

細川周平 2020『近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで 第1巻 洋楽の衝撃』  
東京：岩波書店

——『近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで 第2巻 デモクラシイの音色』東  
京：岩波書店

——『近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで 第3巻 レコード歌謡の誕生』東  
京：岩波書店

——『近代日本の音楽百年——黒船から終戦まで 第4巻 ジャズの時代』東京：岩  
波書店